

病院だより

ガイアの季節

第5号（平成22年5月31日発行）



医療法人 伴 帥 会

愛野記念病院

◎介護老人保健施設「ガイアの里」

◎ケアマネジメントセンター

◎愛の訪問看護ステーション

◎グループホーム「椿高野」

◎愛野健康センター

〒854-0301 長崎県雲仙市愛野町甲3838-1

TEL (0957) 36-0015 FAX (0957) 36-1027

ホームページ <http://www.ainomhp.jp/>

院長挨拶

院長 貝 田 英 二

皆様には、いつもご高配をいただきまして心からお礼申し上げます。

創立31年目を迎え、高度先進医療に対応した施設を目指した新病院の建設をすすめています。何とか来年度中には完成できるところまで進んでおります。完成を期に患者様、そして地域の方々がいっそう安心して医療を受けられる環境づくりをこころがけ、患者様と共に地域医療の質を高めていきたいと考えております。

医療法が改定する度に、病院に求められる機能は変化して参ります。医療は高度化されるだけでなく透明性も求められ、医療機能向上やDPC診療も視野にいた一般急性期診療に対応できなければいけなくなりました。当院もDPC対象病院として機能しており、ハイケアユニット、亜急性、回復期病棟についても病床数の増加を予定しております。

時代と共に、医療として求められるもの、また患者様より求められるものは多様化しており、私たちは常に変化に適応しつつ、病院理念でもある地域の皆様の安心・信頼・満足のゆく健康で豊かな生活を支援することを変わず心に持ち続け、職員一同、日々研鑽してまいりますので今後とも皆様のご支援よろしくお願いいたします。



基本理念

- 一、私たちは患者様、利用者様の立場にたち、納得していただける良質な医療・介護サービスを提供します。
- 一、私たちは保険・医療・福祉を通じて地域の皆様の安心・信頼・満足のゆく健康で豊かな生活を支援します。

内科外来が臓器別編成になりました

愛野記念病院副院長 呼吸器科 古賀 宏 延

はじめまして、本年1月より愛野記念病院に勤務することになりました、呼吸器科の古賀宏延と申します。また、私と同時期に循環器科の古瀬範之医師も勤務を始めました。今回、私たち2名の医師が増えたことにより、内科外来の臓器別体制が整いましたのでご報告申し上げます。

昨年までの当院の常勤内科医は5名で、すべての患者様が均等に振り分けられる曜日別診療体制をとっていました。このため、各医師の専門性が十分に発揮されない状況にありましたが、4月より呼吸器科、循環器科、消化器科の医師がそれぞれ2名ずつに増え、さらに一般内科医の1名を加えて7名体制に充実させることができました。もちろん、これらの医師以外に、非常勤7名の応援医師もこれまで通り勤務しています。

このように、内科外来および病院全体としての内科診療体制が臓器別に編成された利点としては、

- 1) 主要な内科領域を包括できる専門医が必ず1人は外来を担当できます。
- 2) そのため、紹介患者様や新患の方が、即日に専門医の診察を受けられるようになり、早期診断、早期治療がより確実になりました。
- 3) 今まででは1人の医師では困難であった侵襲的な検査等も、2人体制では協力しながらより安全に施行できるようになりました。
- 4) 治療法の選択や検討においても、主観的な判断からよりEBMに則した客観的考察ができるようになりました。
- 5) 医師数が増えた分、医療連携も充実し、紹介あるいは逆紹介の患者様も増えました。

以上のように、より充実した診療体制の構築を目指しておりますが、どの科を受診していいのかわからない場合でも、一般内科医の担当もいますので、お気軽にご紹介頂ければ幸いに存じます。今後ともよろしくお願い申し上げます。



腰痛教室について

人間が四足歩行から二足歩行へ進化した時から腰痛は存在し、全人口の9割の人が一生の内に腰痛で悩まされるという報告があります。腰痛に対して理学療法士が従来から行っている運動療法としてWilliams-ExerciseやMckenzie-Exercise、Cailliet-Exerciseなどがありますが、最近ではStretchPoleを用いたCore ConditioningやAir Stabilizerを用いた腰部安定化トレーニングも徐々に普及しつつあります。医療界においても腰痛を単に腰部のみの問題と認識せず、Hip-Spine-SyndromeやSpine-Knee-Syndromeに代表されるように、体幹と下肢各関節の影響を考慮するようになってきています。



我々理学療法士も運動連鎖の観点より身体運動を多関節運動連鎖として捉え包括的に運動療法を展開していますが、医師の診察や手術、理学療法士が処方する運動プログラムのみでは限界があります（他動的治療）。整形外科的疼痛に対する治療においては、医療的な診療・手術・運動療法に加え、患者様の疾患に対する理解と、患者様自身の努力が必要不可欠です。患者様自身は自己の腰痛についてほとんど理解できておらず、また日常生活においても十分な自己管理が出来ていない為、疼痛の慢性化を招く結果となります。

そこで、日常生活において自己管理のもと腰痛をコントロールしていくには、腰痛に対する適切な知識と、腰部に負担をかけない身体の使い方を十分な時間をかけて患者様に指導する必要があります。例えば、病院を受診される患者様は、「何か良く分からないがとにかく腰が痛い」「何もしていないのに腰が痛い」など、非常に曖昧な表現で来院されます。腰痛に対してそのような認識しか持っていないのでは、いくら良い治療を受けても腰痛の自己管理は不可能です。たいていの患者様は、診察室やリハビリ室での問診によって自己の腰痛について認識していくことが普通です。

そのような現状を踏まえて、疾患や生活状況に対する適切な情報提供の場を、当院では腰痛教室として設置しています。当院の腰痛教室では腰痛の自己管理に必要な知識面の指導と、腰部の安定化を目的とした運動の指導を約1時間かけて実施しています。（毎月第1・3木曜日、18:00～19:00実施）一概に診断名は同じでも一人ひとり症状は異なりますので我々は、腰痛教室参加者一人に対して理学療法士一人が対応しています。よって個人の状態に合わせた細かな指導が可能となります。また、教室の最後には患者様からの質問を受けるようにしています。

私は、日常生活を含む個人特有の生活背景の中で、腰痛の慢性化には、腰部への力学的ストレスによる腰部構成組織の微細損傷が深く関与していると考えています。明らかな外傷の既往のない非特異的腰痛は臨床上非常に多く、患者様は不安を抱えて生活しています。私達、腰痛教室グループの理学療法士は、腰痛教室を通して患者様自身でも日常生活における疼痛コントロールができることを実感して頂きたいと考えております。

これからも我々理学療法士は、愛野記念病院の基本理念のもと、地域の皆様の安心・信頼・満足を得られるよう、日々精進していきたいと考えております。



当院における「足と靴の相談窓口」開設について

人類史上、最高の天才と称されるイタリア・ルネッサンス期の巨匠レオナルド・ダ・ヴィンチは、人間の足を「人間工学上の最高の傑作であり、また、最高の芸術品である」と述べています。人間の足には決して機械では再現不可能な「あおり運動」が存在し、歩行運動を効率の良いものにしていきます。人間は歩くとき無意識下で踵球から小趾球、母趾球へと足圧を移動させています（あおり運動）が、これは足部に存在する3つのアーチ構造により効率良く発揮されます。このアーチ構造が破綻してしまうと歩行は快適さを失い、若年者では「歩くことが苦痛」、高齢者では「歩くことが重労働」になってしまいます。

当院は整形外科疾患の患者様が多く、我々理学療法士は運動器疾患に対して生体力学的視点より治療を行っていますが、患者様が履いている靴があまりにも不適切な靴である事に驚かされます。ほぼすべての高齢者が「軽くて柔らかく、履き易い靴」を履いています。これでは、整形外科診療や手術、理学療法の効果は靴によって崩されているといっても過言ではありません。靴は本来、足を守る道具として捉えなければならないのですが、逆に身体に悪影響を及ぼし、膝関節痛や腰痛などの慢性疼痛の一要因となってしまう事もあります。また、足部や足趾の変形や角質異常も合わない靴によって助長されているといえます。

そこで我々は、①足と靴に対して理解してもらうこと、②足底板を挿入することで足部のアーチをサポートし「あおり運動」を体験してもらうこと、を大きな柱として「足と靴の相談窓口」を立ち上げ、形成外科医・理学療法士・オーダーメイド靴屋が連携して個人の足や靴の状況、歩き方や体の使い方に対してアドバイスを行っています。

近年、成長過程にある幼児や若い女性にも足部や爪などの問題を抱えている人が多く、足部のケアは我々にとって急務であると感じています。例えば、扁平足、外反母趾、内反小趾、槌趾、開張足など例を挙げるときりがありませんが、足部や足趾の変形は全身に悪影響を及ぼします。皆様も足部や足趾を一度見つめ直してみてもいいでしょうか？もし何か気になることがありましたら当院の「足と靴の相談窓口」へ一度足を運んでみて下さい。



<日 時> 毎月第2・4火曜日 13:00~18:00（完全予約制）

<場 所> 愛野記念病院2階 多目的ホール

<参加費> 無料

<受付方法> 愛野記念病院1階 リハビリ室 川口まで（TEL 0957-36-0015）

※参加される際は、いつも常用している靴やサンダルなどをご持参下さい

第1回九州ハンドセラピー研究会学術集会を終えて

リハビリテーション部 田 崎 和 幸

九州ハンドセラピー研究会は、特に九州地区におけるハンドセラピストの知識および技術の向上と学術的な交流により同士の輪を広げる目的で一昨年に設立致しました。その活動の一環として平成22年1月16日(土)に福岡市のガスホールにて記念すべき第1回目の学術集会を開催し、166名の参加者とともに盛会の内に終えることができ、九州のハンドセラピーにおける新たな第一歩を踏み出せたことを非常に光栄に思います。

ハンドセラピーを行う上で、手の外科に関する知識(手の外科医による診断・治療など)を習得することは必要不可欠なことでありますので、今後は、年1回2月の第1土曜日に開催されます九州手の外科研究会の翌日に本学術集会を開催できるよう努力していき、九州ハンドセラピー研究会の益々の発展に尽力して参りたいと考えております。

最後になりましたが、第1回九州ハンドセラピー研究会学術集会を開催するにあたりましては、熊本機能病院 副院長 中島英親先生ならびに愛野記念病院 院長 貝田英二先生をはじめ、九州手の外科研究会の諸先生方より、格別のご厚情・ご支援を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。



看護学生を迎えて

平成21年度より当院で初めて、準備も充分整っていない中に、看護学生の臨床実習をお引き受けするようになりました。カリキュラム中、基礎看護学、成人看護学Ⅰ・Ⅱ、介護老人保健施設の実習を当院とガイアの里でお受けしました。何しろ初めてのことであり、実習生を受け入れる環境の準備は勿論のこと、当院での実習がカリキュラムに沿ってクリア出来るような指導体制ができるか等々、多くの心配や、問題がありました。看護部としては、臨床実習指導委員会を立ち上げて、看護部の業務マニュアルの見直し・作成、実習指導に当たるスタッフの教育研修を行い、指導者を中心に看護部全体で実習生を受け入れることができるように準備をいたしました。実習開始後も、実習校との連携をこの指導者委員会を通して密に行い、それぞれの立場から実習指導に関する屈託ない意見交換を行いました。今後も看護学生が、要綱に沿って効果的に、かつ厳しい中でも、楽しく実習していただけるように、学校と臨床側が常にコミュニケーションを図りながら、実習生に関わり、実習目標を達成できるようにしていきたいと思っております。当院を実習病院として選んでくださったことで、実習生にきちんとした看護を伝えなければならないと、スタッフ全員が自らの看護を振り返る機会となり、看護部の活性化につながり、当院の看護の質の向上にもつながっているということを実感し感謝しております。これからも、当院の実習で「看護の素晴らしさ」を学生の方々に伝え出来るように頑張りたいと思っております。

編集後記

あじさいの花が色を深めております。

今回、広報誌第5号を発行いたしましたのでご一読下さい。

新年度を迎え、当院にも新スタッフが入職致しました。新スタッフとともに、私たちも新たな気持ちで患者様を支援していこうと思っております。

今後ともどうぞ、宜しくお願い致します。

地域医療連携室

診療科			月	火	水	木	金	土
整形外科	午前	1	貝田 英二 (手の外科・神経)	貝田 英二 (手の外科・神経)	貝田 英二 (手の外科・神経)	貝田 英二 (手の外科・神経)	貝田 英二 (手の外科・神経)	宮崎 洋一 (手の外科・関節・リウマチ)
		2	宮崎 洋一 (手の外科・関節・リウマチ)	宮崎 洋一 (手の外科・関節・リウマチ)	宮崎 洋一 (手の外科・関節・リウマチ)	伊藤 茂 (股・膝関節・リウマチ)	伊藤 茂 (股・膝関節・リウマチ)	中村 隆幸 (整形一般・脊椎・小児整形)
		3	伊藤 茂 (股・膝関節・リウマチ)	松尾 洋昭 (整形一般)	中村 隆幸 (整形一般・脊椎・小児整形)	松尾 洋昭 (整形一般)	松尾 洋昭 (整形一般)	
	午後		貝田 英二 (手の外科・神経)	中村 隆幸 (整形一般・脊椎・小児整形)	河合 尚志 (整形一般・リハビリ)	伊藤 茂 (股・膝関節・リウマチ)	河合 尚志 (整形一般・リハビリ)	
						橋口 隆 (脊椎) (第2・4木曜)	中村 隆幸 (整形一般・脊椎・小児整形)	
形成外科	午前		山中 健生		山中 健生		山中 健生	山中 健生
内科	内科一般 新患	午前	星野 晶子	星野 晶子	曾野 弘士	曾野 弘士	曾野 弘士	大学医師
		午後	古賀 宏延	古川 佳奈	大学医師	高木 明子	古川 佳奈	
	呼吸器	午前	古賀 宏延	出川 聡	古賀 宏延	出川 聡	出川 聡	古賀 宏延
		午後	出川 聡 (COPD)	古賀 宏延	出川 聡	山下 広志	古賀 宏延	
	循環器	午前	古瀬 範之	中富 大介	古瀬 範之	中富 大介	古瀬 範之	中富 大介
		午後	中富 大介	古瀬 範之	中富 大介	古瀬 範之	中富 大介	
	消化器 糖尿病	午前	中路 敏昭	中路 敏昭	大塚 英司	中路 敏昭	大塚 英司	大塚 英司
		午後	大塚 英司	大塚 英司 (フットケア外来)	中路 敏昭	大塚 英司	中路 敏昭	
	心療内科 神経内科	午後	森 正孝 (神経内科) (月1回)		中谷 晃 (心療内科) (月1回)			
	外科	午前	深堀 知宏	古賀 浩孝	前田 滋	古賀 浩孝	深堀 知宏	前田 滋 古賀 浩孝
		午後			NST外来 前田・曾野		痔専門外来 深堀 (隔週) 緩和ケア外来 深堀 (隔週)	
耳鼻科	午前							大学医師